

第 233 回定例会（情報共有会議）委員所感への回答

令和 4 年 11 月 2 日

刈羽村

■小野委員（所感・意見）

②柏崎刈羽原子力発電所は新潟県・柏崎市・刈羽村にとって大切な雇用の場でもある。人口減を回避し、豊かな地域作りのためにも再稼働は必要。廃炉では希望は持てない。

（所感・意見：内閣府、新潟県、柏崎市、刈羽村）

（回答）

- 原子力は新潟県・柏崎市・刈羽村のためのものではなく、日本のエネルギー政策に貢献するものだと考えます。
- ・日本の経済を支えるには安定かつ安価な電気が必要であり、そのために原子力が必要です。
 - ・経済と命はどちらが大切か…ではなく、命を守るために経済があり、エネルギーはあらゆる経済基盤を支える最重要インフラです。
 - ・日本のために柏崎原子力発電所で働く人が増えることは、日本のためのみならず新潟県・柏崎市・刈羽村の発展にも大きく寄与すると考えます。

⑤地域の会の真摯な姿勢に安全・安心・信頼感を覚える。会は東電・規制庁・行政（県・市・村）等と互いにオープンな対応で透明性を確保し、真摯な姿勢に安全・安心・信頼感を覚える。

（所感・意見：東京電力 HD（株）・原子力規制庁・行政）

（回答）

- 地域の会を通して、委員の皆さんと情報共有をすることで、透明性の確保や安全運転の意識向上につながっていると考えます。
- ① 透明性について
- ・透明性の確保を通じて「不正が行われていない」ことを確認して安心できます。
 - ・企業秘密もあればテロ対策などの秘匿事項もあります。
 - ・地域の会は事業者でも監督者でも行政でもない視点を持っています。
 - ・住民の皆さんの視点からのアプローチには価値があります。
- ② 安全運転について
- ・安全運転：安全は科学です。我々が安全確保に資するには自ずと限界があります。
 - ・規制当局が本会に参加していることには大きな価値があります。

■坂本委員（所感・意見・質問）

② 昨年の情報共有会議でも述べましたが、原子力の考え方にはそれぞれ賛否があるかと思えます。事業者のみならず、立地地域の住民として我々も自発的に学ぶことも必要かと思えますが、エネルギー政策や災害時の避難計画など、住民目線で分かりやすい情報発信をしていただきたいと思います。

（エネ庁、新潟県、柏崎市、刈羽村に対する所感・意見）

（回答）

- エネルギー政策について、国の動向・方針に基づき適切なタイミングでわかりやすい情報発信ができるよう努めます。
- 避難計画について、命を守るための行動についてわかりやすい情報発信に努めます。
 - ・ 究極の目的は避難計画の周知ではなく「村民が避難できること、命を守ること」です。
 - ・ 災害対応の基本は「自助」、命を守るには「自分の身は自分で守る」という普段からの心がけ、行動が大切です。
 - ・ 「防災無線の受信確認、自家用車のガソリンは常時半分以上、非常用持出物品の整備」など基本的なことを日頃から行ってもらえるように伝えていきます。

③ 避難計画について、昨年の地域の会にて避難計画のアンケートのような資料を拝見したところ、ほんの一部ではありましたが、ペットの扱いについて記載がありました。会の中でも質問をさせていただきましたが、「人命が最優先」とのことで、それは重々承知なうえですが、何か対策のようなことは考えられているのか、お聞かせいただきたいと思います。

（回答）

- 飼い主とペットが安全に避難するためにはまず飼い主の安全確保が第一で、その点からも人命が最優先です。ペットの飼い主の早期自立支援がペットの健康と安全の確保につながると考えます。
 - ・ 災害対応の基本は人命と同じく「自助（飼い主による飼養管理）」です。自治体や現地動物救護本部の支援は、しつけや健康管理など、日頃から飼い主が十分な責任を果たしていることが前提となっています。
 - ・ アレルギーなどペットと同じ空間で過ごすことができない方もいるため、キャリーバックやケージに慣れさせるなどの訓練、非常用持出品の整備などの対応を日頃からおこなってもらえるように伝えていきます。

以上